

酒造好適米新品種「吟のさと」の 収量性向上に向けた取り組み

峡南地域では、JAふじかわ酒米部会(部会員数:8戸、酒米栽培面積:約8ha)が、富士川町の酒蔵と連携して酒造好適米等の生産に取り組んでいます。

県内平坦地の酒造好適米は、従来「玉栄」が栽培されていましたが、この品種は高温登熟条件下では胴割粒が発生しやすい特性があるため、夏季高温年だった平成22年は、胴割による玄米品質の低下が顕著となりました。

そこで、総合農業技術センター栽培部では、この品種に代わる平坦地向け酒造好適米の品種比較試験を行い、この成果に基づき「吟のさと」が有望品種として選定され、平成24年度には奨励品種に採用されました。

JAふじかわ酒米部会では、平成24年に「吟のさと」を試験導入したところ、胴割粒はほとんど発生せず一等米の玄米品質であることを確認しました。しかし、収量は「玉栄」と比べて少なかったため、収量性を高めるための対策が必要であることも確認されました。そこで、総合技術普及センターでは、収量性向上に向けた実証ほを設置し、栽植密度と施肥体系を検討してきました。その結果、平成24年には基肥に緩効性肥料を配合させることで、穂数が増加し収量性の向上する結果が得られ、今年の実証ほの数を4カ所に増やして、新配合肥料の効果を再確認しています。

今後も、酒蔵や農家と連携する中で、良質な酒造好適米産地となるよう、取り組みを支援していきます。(問い合わせ先 0551-28-2937)



吟のさと施肥体系実証ほ



実需者を交えた現地検討会

「やまなし花フェスタ2014」 が開催されます

山梨県花き振興協議会では、県産花きのPRと認知度の向上を図るとともに、花きの魅力を発信し、花き産業並びに花き文化の発展を目的にやまなし花フェスタ2014を開催します。

日時 **11月21日(金)～23日(日)**
午前10時～午後5時

場所 **ラザウォーク甲斐双葉**
1F ラザコート 2F ラザホール

お問い合わせ先
県花き農水産課
TEL.055-223-1612
FAX.055-223-1615

11月22日(土)には、フラワーアレンジメント教室も開催します。

多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

第3回やまなし発有機の郷推進交流大会 「有機農業の推進について語る会」 が開催されます

環境にやさしい農業への理解と関心を高め、有機の郷(さと)づくりの実現に向け、10月20日(月)午後1時から、甲府市湯村・甲府富士屋ホテルにおいて、第3回やまなし発 有機の郷(さと)推進交流大会「有機農業の推進について語る会」が開催されます。

当日は昨年もお招きした「奇跡のリンゴ」の主人公として有名な、青森県で自然栽培によるリンゴ栽培を実践している木村秋則さん、東北福祉大学の学長 萩野浩基さんの両名からの講演を予定しております。

また、分科会として、全国の有機農業の実践者や研究者の方を講師(アドバイザー)として迎え、専門分野の解説による有機農業などの農法や有機農産物の流通について、参加者の皆様と一緒に学び考えていきます。

参加を希望される方は、事前申し込みが必要となります。

申し込みの方法や、詳しい内容については、**県農業技術課**のHP又は、電話**055-223-1618**までお願いします。

山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

■編集/発行 山梨県総合農業技術センター ■住所 甲斐市下今井1100 〒400-0105
■Tel.0551-28-2496 ■Fax.0551-28-4909
■URL.http://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/
■E-mail.sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No.26
平成26年9月20日発行



果樹技術 普及センター

台湾輸出に向けたモモの害虫防除と 適正選果に向けた取り組み



選果研修会での防除指導



台湾当局による査察の対応

果樹技術普及センターでは、モモの販路拡大とブランド化を図るために、台湾向け輸出の促進に向けた支援を行っています。

台湾へのモモの輸出に当たっては、植物検疫への対応が大きな課題となります。そこで、重要害虫のモモシクイガを中心とした害虫が発生しないようにするため、防除指導や、害虫の被害果実を見落とさない適正な選果指導の徹底を進めてきました。

害虫防除の指導においては、モモシクイガのフェロモントラップ調査結果や生育・気象状況(ゲリラ豪雨など)を考慮して防除情報資料を作成し、関係機関と連携し防除の徹底を図りました。

また、適正選果に向けては、研修会を開催し、害虫の生態や防除方法・被害果実の状況などを説明するとともに、選果施設を巡回し、選果行程の遵守や時間当たりの選果量の制限など、検査の徹底を促し、出荷物への害虫混入防止指導を行ってきました。

今後も、関係機関と連携を十分に図りながら、適切な害虫防除指導や選果指導に取り組めます。(問い合わせ先 0553-22-1922)

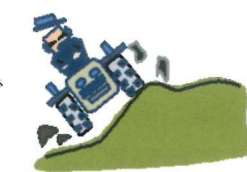
農作業安全について

収穫作業の最盛期となる9～10月は、農作業安全確認運動の重点期間です。

農作業事故の内、トラクターをはじめとする農業機械の転倒、転落による死亡事故は、全国で年間90～120件発生し、そのほとんどは、普段見慣れたほ場や農道で発生しています。このため、事故が起きても運転ミス等で片付けられてしまっていることも多いと言われています。

見慣れている場所での事故を防ぐためには、「ここでも事故が起きる危険がある」という思いを常に持ち続けることが必要です。

農作業前には作業現場をイメージし、危険要因を予測したり、危険な場所(路肩が崩れやすい場所、見通しの悪い場所、ぬかるみの発生しやすい場所等)を確認しておくなどの対策を取ることが重要です。



雪害対策について

平成26年2月の大雪は、本県を含め、関東甲信地方で農業関連施設に甚大な被害を及ぼしました。

近年の各種気象災害(台風、突風、豪雨、豪雪、猛暑等)の増加している状況を考えると、今後においても本年2月のような大雪を想定した対策が必要です。詳しい内容は最寄りの普及センターへお問い合わせ下さい。

また、次のホームページも参考にして、今後の雪害対策や技術対策に役立てて下さい。

- 山梨県 農作物の雪害に対する技術対策資料 <http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/index.html>
- 農林水産省 平成26年2月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針 http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/ryutu/pdf/140716_1-01.pdf